

# 広島大学平和センター CPHU NEWSLETTER 2020

〒730-0053 広島市中区東千田町 1-1-89  
TEL: 082-542-6975 FAX: 082-245-0585  
E-mail: heiwa@hiroshima-u.ac.jp  
Website: <https://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa>



## ご挨拶

### ポスト新型コロナの時代を見据えて

広島大学平和センター長  
川野 徳幸



2020年度（令和2年度）は、新型コロナ感染拡大の混乱の中、幕を開けました。2019年12月に確認された新型コロナ感染症は、その後、瞬く間に世界的な感染拡大を見せ、ここ日本でも2020年1月16日、国内初の感染者が報告され、それ以降、感染者は増加の一途をたどりました。それを受け、政府は4月7日に緊急事態宣言を東京、大阪など7都府県、続けて、4月16日には全都道府県に対し発令しました。そういった状況の中、広島大学も感染拡大防止の視点から、4月3日に予定されていた入学式を中止し、新入生への学部別ガイダンスも取りやめ、Web利用でのガイダンスとなりました。新入生、そして在学学生は、4月以降、これまでほとんど経験したことのないオンライン、オンデマンドという慣れない講義スタイルを経験することとなりました。当初、学生・教職員ともに慣れないこのシステムに翻弄され、私自身、3月中旬から4月中旬まで、全く不案内であったオンライン講義システムの習得に明け暮れることとなりました。

世界に目を転ざると、自由で開かれた国際協調主義を標榜し続けた戦後国際社会は、自国第一主義にと陥った感さえあります。途上国諸国における貧困、気候変動、新興・再興感染症などの公衆衛生の問題、難民の大量発生など、これらグローバルな課題は、一国だけで解決することは困難で、国境を越えた世界規模での協調が必要とされ、このことは常識ですらありました。時として、各国の利益を優先させ、自国第一主義が垣間見えるときでさえ、国連を中心とする、グローバルな協調体制を維持しようとする自制もありました。とこ

ろが今般の新型コロナ禍は、一国では解決できない問題であるにもかかわらず、戦後75年長きにわたって構築してきたグローバルな協調体制を根底から覆すような事態を招いています。

国内社会においても、県境をまたぐことも、制約されることとなりました。私たちには、不要不急の外出「自粛」が求められ、各施設には感染防止対策の観点から閉館等の協力要請がなされました。感染拡大防止の視点から、政府・都道府県自治体のこれらの対応は、十分理解できる一方で、「コロナ自警団」、「自粛警察」なる「自粛」を強要する人たちの存在に対して、ある種の違和感と恐ろしさを覚えたのは私だけでしょうか。戦前をテーマとする映画のシーンに時折でてくる「隣組」、「国防婦人会」を想起してしまったのは私だけでしょうか。

コロナ禍を受けて、ほとんどのイベントも中止、または延期を余儀なくされました。私たち広島大学平和センターが企画していた2020年3月以降の幾つかのイベントも同様に、延期を余儀なくされました。3月に予定していた日本学術振興会支援のオランダとの二国間交流事業セミナー、そして、市民公開講座も延期としました。被爆75年の今年、原爆被害、戦争被害、そしてそれらの記憶継承をテーマに、活発な議論を展開し、市民に還元したいと思っていました。しかし、ここで手をこまねいているわけにはいきません。こういった時代（とき）であるからこそ、「平和」を標榜する広島大学は、冷静にポスト新型コロナの社会を見据えて、自国第一主

義に陥らない国際協調による「普遍的平和」を構築・提案しなければなりません。そこで、この6月から『2020 学生ヒロシマ「平和」を考えるサミット』を実施しています。広島大学に在籍する多国籍の学生・大学院生が、特別講義、研究会、被爆体験講話などを通し、原爆、戦争、紛争、そして今日的緊急課題を学び、討論を重ね、そして、学生版の「平和宣言」となる『2020 学生ヒロシマ宣言』を起草・発表します。被爆75周年を迎える本年は、ポスト新型コロナウィルス時代の世界も見据えつつも、他方でヒロシマの経験という原点に立ち返りながら、これからのヒロシマの役割、次世代の理想とすべき「平和」について議論したいと考えています。次世代を担う当事者である学生に、若い視点でこれからの「平和」を考え、提案してもらい、世界に向けて発信します。宣言は、8月6日に発表し、同日の広島大学平和企画の一環として越智学長への手交式を行うこととしています。詳しくは、以下のURLをご参照いただければ幸いです。

[https://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/10\\_newpage2.html](https://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/10_newpage2.html)

以前、平岡敬元広島市長から、「戦後の広島の人々は優しいかった、いたわりの心があった。電車で、原爆で傷ついた人を見れば、誰からともなく、席を譲っていた」という話を聞いたことがあります。今こそ、他者を思いやり、他者に優しい時代を思い返す時なのかもしれません。新型コロナ感染拡大によって、社会的に弱い立場にある人があらためて顕在化しました。ポスト新型コロナの社会は、そういった人たちをより大切にする、そういった人たちに寄り添える社会でありたいと願っています。2020年度も平和センターは、教職員一丸となって平和研究・平和教育に取り組み、他者を思いやる社会の構築に若干なりとも貢献したいと思います。関係各位におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

## 2019年度センターの活動

### シンポジウム

●広島大学平和センター主催 2019年度国際シンポジウム  
広島平和文化センター広島国際会議場(30周年記念事業)、広島平和記念資料館、北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院、ソウル国立大学との共催

「HIROSHIMA とピースツーリズム」(2019年7月20日、広島国際会議場ヒマワリにて開催 参加者約160名)

昨今、東アジアを中心に、観光を通じた市民参画型の戦争体験継承と和解のネットワークが形成されつつある中、第一線で活躍する国際的な実務経験者や研究者を一堂に会して、タイムリーな議論を被爆地広島で展開した。5名の講演後には、広島大学大学院国際協力研究科副研究科長 片柳真理教授のコーディネートにより、登壇者のパネルディスカッションが行われた。会場からも多彩な質問、コメントがあり、有意義な議論が展開された。



パネルディスカッションの様子

<講演者/パネリスト>

山田義裕(北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院前院長/教授)

「平和観光における「偶有性」と「連帯」

マイク・ロビンソン(バーミンガム大学アイロンブリッジ国際文化遺産研究所所長/教授)

「石に学ぶ～古きものに新たな物語を」

ジョン・グンシク(ソウル国立大学社会学部教授)

「韓国の冷戦景観とピースツーリズム」

ファンデルドゥース・ルリ(広島大学平和センター准教授)

「ピースツーリズムと当事者性・居場所感」

志賀賢治(広島平和記念資料館前館長)

「ヒロシマの未来と資料館の役割～世界史的視座から」

<モデレーター>

片柳真理(広島大学大学院国際協力研究科副研究科長/同大平和センター副センター長)

**国際研究会議**

● 広島大学平和センター主催国際研究会議

“Weaving Peace through Heritage Tourism“

(2019年7月21日、広島国際会議場ダリアにて開催)

本会議は、6名の研究者が、東アジアの緊張的国際関係について、その歴史・社会・文化的背景を、観光学と社会連携という学術と実務の双方を融合した新たな視点から考察した。従来の学問的枠組を超えて、メディア・観光学、社会学、応用言語学、心理学、建築学、医学、地政学など多彩な視点を交えた研究報告を行い、議論した。「ツーリズム」を多角的・領域横断的に捉えた新研究領域を、東アジアを中心に確立する構想が提案された。

<講演者>

マイク・ロビンソン (バーミンガム大学アイロンブリッジ国際文化遺産研究所所長/教授)

金成 暁 (北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授)

ファンデルドゥース・ルリ (広島大学平和センター准教授)

ゾウ・キュン・ジン (ソウル国立大学大学院環境学科教授)

片柳 真理 (広島大学大学院国際協力研究科副研究科長/同大平和センター副センター長)

平井 健文 (北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院博士研究員)

<モデレーター>

友次 晋介 (広島大学平和センター准教授)



研究者集合写真

**研究会**

● 第223回研究会 (2019年10月31日)

黒木 英充 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授) 「世界の内戦を考える：レバノン、ユーゴスラビア、シリアを事例に」



黒木教授講演の様子

● 第224回研究会 (2019年12月9日)

“Airspace Tribunal & Topologies of Air”

Nick Grief (ケント大学法科大学院教授)

Andrew Hoskins (グラスゴー大学社会科学院・多領域横断型研究教授)

Shona Illingworth (ケント大学芸術学教授)

Renata Salecl (ロンドン大学バークベックカレッジ教授)

● 第225回研究会 (2019年12月20日) \* 第436回 IDEC

セミナーと共催

三牧 聖子 (高崎経済大学准教授)

“A Watershed? The Historical Evolution of American Internationalism and the Prospect”

**センター共催・後援・企画等のシンポジウム、研究会等**

● 2019年6月22, 26日 (後援)

第2回市民・被爆者交流公開講座

「ヒロシマの再考察・外国人被爆者(非軍人)」

● 2019年8月6日 (企画)

広島大学平和企画

・ 第II部 学生による平和祈念ミニコンサート

ー 祈り、そして希望ー

・ 広島大学平和センター特別講義 (川野センター長講演)

「平和とは何かー広島大学の平和科目が目指すものは何か」

●2019年11月8,9日(協力)  
第58回東洋東南アジアライオンズクラブフォーラム(58th OSEAL)

- ・開会式ー基調講演(川野センター長講演)  
「原爆被爆被害とは何か」
- ・平和セミナー「ビジネスと平和」
- ・平和セミナー「ヒロシマの記憶遺産～被爆後の応急復旧から持続的復興への道のり」

●2019年11月18日(企画)

- ・第92回広島大学講演会 サロー節子氏  
「光に向かって這っていけー核なき世界を追い求めて」
- ・講演後、学生との意見交換会を実施(主催)



意見交換会後の集合写真

●2019年12月8日(共催)  
公開セッション(内閣府国際平和協力本部事務局、UNITAR 広島事務所)

「平和構築のための若者の雇用と起業ー広島からイラクへの経験の共有」

## 出版物

●『広島平和科学』(第41号、2020年3月)

## 社会貢献など

- 名古屋大学教育学部附属中学校などへの平和学習 6件
- 新聞、TV等メディアでの発信 10件
- 政治社会学会理事、Editorial Board Member of *RADIATION MEDICINE, ECOLOGY AND REHABILITATOLOGY*、「エジプト日本科学技術大学(E-JUST)プロジェクトフェーズ3」国内支援委員会専

門部会国際ビジネス・人文学ワーキング・グループ委員、ひろしま平和研究・教育機関ネットワーク委員(広島県)、公益財団法人広島平和文化センター理事、平和に係る教育・研究の導入機能等に関する検討会委員(広島市)、平和宣言に関する懇談会委員(広島市)、読売新聞被爆75年被爆者意識調査(共同事業)、毎日新聞「黒い雨」体験者へのアンケート調査(共同事業)、NGOヒロシマ・セミバラチンスク・プロジェクト顧問、国立研究法人日本原子力研究開発機構核不拡散政策研究委員会委員、国立研究法人日本原子力研究開発機構将来の原子力技術に係る社会環境整備検討委員会委員、広島市ピースツーリズム推進懇談会委員、広島平和文化センター広島平和記念資料館運営会議委員など

## 日本学術振興会科学研究費助成事業

●研究代表者：川野徳幸

2019-2022年度科学研究費補助金 基盤研究(B)

『世界の核被害の地域間比較研究：「いのち」、「こころ」、「くらし」の視点から』

補助金額：1,260万円(2019-2022年度直接経費総額)

\*その他、分担5件

●研究代表者：友次晋介

2019-2021年度学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)

『科学技術外交としての日本の対アジア地域原子力協力』

補助金額：320万円(2019-2021年度直接経費総額)

\*その他、分担3件

●研究代表者：ファンデルドゥース・ルリ

2019-2020年度学術研究助成基金助成金 研究活動スタート支援

『原爆・被爆体験の継承における「普遍的平和」の概念：言説変遷と国際的影響の実証研究』

補助金額：220万円(2019-2020年度直接経費総額)

\*その他、分担2件

## 村田学術振興財団 2019年度研究者海外派遣援助

●研究代表者：友次晋介

“The Beginning of Japanese Atoms for Peace Cooperation toward Asian Countries”

助成金額：30万円